

塾長の独り言 NO 166 H 25.4.8

「まず三年。目の前の仕事に真剣になれ」

4月25日千葉経営研究会、理念委員会の例会で日本レーザーの近藤社長を講師としてお呼びします。その時の事前準備として近藤社長の著書「ビジネスマンの君に伝えたい40のこと」を読みました。

すると私自身が新入社員だった頃(30数年前)を思い出しました。

(4月2日に顧問先の新入社員研修があったことも影響があると感じます)

20pに、こんな文章が書いています。

会社は何のためにあるのか。

私は、人を雇用し、働くことを通して得られる喜びを提供することが究極の存在理由ではないかと思っています。

働く喜びがあれば、人は黙っても真剣に仕事に打ち込み、もっとよくなる方法はないかと知恵を絞り工夫を重ねます。その結果、新しい価値を生み出し、成果を上げられた時の喜びは何にも代えがたい充実感を私たちにもたらしてくれます。

そんな「働く喜び」を知る社員を一人でも多く増やすこと。それが経営者である私の役目です。

目の前の仕事に真剣に取り組む社員は、会社の宝であり、利益をもたらす大切な「人財」なのです。

この理念のもの、私はどうしたら社員がイキイキと働けるかを考え続け、あらゆる工夫をしてきました。

しかし、あるときに気がついたのです。

仕事にやりがいを持てるかどうかは、結局本人次第だと。

私は長崎大学を卒業して新卒で入社した会社は、東洋冷蔵という(三菱商事の水産部門の子会社)冷凍鮪鮠を取り扱っている水産商社でした。(当時、冷凍鮪のシェア30%以上、売上2000億円)大学を卒業して、新人がやる仕事は「船どり」です。

どんな仕事か? その現場はすごい肉体労働、炎天下、雨や風の中でも休みなしの3K。

冷凍された鮪を船から、港の岸壁にある踊り場にバナナのようにつるされた冷凍鮪を降ろし、サイズやランク、魚種ごとに仕分けして、冷凍トラックから冷蔵庫に入れるまでの仕事です。

清水港の港湾労働ですから、炎天下の下、軍手をはめて、手鍵を持って、魚を引っ張る仕事です。

トラックの運転手や作業員たちは、上半身を裸になれない刺青が見える人など……。

正直、大学まで卒業したのに、こんな仕事をさせるんだという気持ちでした。

そして社員寮では、先輩後輩のしきたり(イジメ)が強くあり、真夜中に叩き起こされたりいろいろな理不尽がありました。

仕事に「やりがい」といふより「とんでもない世界」というイメージです。

しかし、自分の都合で大学を1年留年し、親にも迷惑を掛けたので、すぐ辞めることは出来ない。

最低でも3年は頑張る、一年目は修行の身分だと思い直し、自分自身で目標を立てました。

「一年で鮪のプロの仕訳人になる」

その為、日課としてノートをつけ、財産となるように詳細に分析して役に立つように工夫しました。

朝は4時に起き、市場のセリを見学して、目利きも出来るようにと頑張った一年でした。

その後、夢の実現の途中で、1年後に札幌に転勤になりましたが……

その手作りの記録ノートは私にとって大事な財産にもなりました。

会社に来ることは、やる気を発揮し易い環境を整えることは出来ますが、その環境をどう活かすかは、本人に任せるしかありません。

どんなに制度を整えても

「この仕事はつまらない」

「自分には向いていない」

「もっとほかのいい会社があるんじゃないか」

などと思っていれば、やる気は湧いてきませんし、仕事のパフォーマンスも上がりません。

やる気になれるかどうかは、本人次第。

そう あなたの意識ひとつにかかっているのです。

会社や仕事に対する不満を、若い人たちから聞くことがあります。

そもそもやりたい仕事が見つからず、就職できればそれでいいと入った会社かもしれません。

だから、仕事にやりがいなど持てないという気持ちはわからないわけでもありません。

仕事は自分自身で面白くするもの。

自分には合わない、つまらないと思った仕事でも、真剣に取り組むことで最初の印象と異なる何かを発見するかもしれません。

その可能性を探る前に、たった数カ月で「面白くない」「合わない」と答えを出すのはもったいないと思います。

私自身の経験を振り返り

「何をやるか？」よりも「どのように働くか？」が大切な気がします。

あなたはいかが感じますか？

<コメント>

新入社員に対して、何をアドバイス出来るか？

やる気は本人次第！

会社では、その環境を準備出来るだけです。

仕事は自分自身で面白くするもの。

つまりは、仕事の報酬は仕事なんですね。